

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290300070		
法人名	医療法人 済家会		
事業所名	グループホーム長庚堂Ⅱ		
所在地	長崎県島原市弁天町一丁目7063番地		
自己評価作成日	令和 02年06月26日	評価結果市町村受理日	令和2年9月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/42/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構		
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1		
訪問調査日	令和2年8月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

商店街、公園の近くに立地しており、近隣には母体法人の医療施設がある為、他職種との連携強化も図れており、利用者様、ご家族様には安心して繋がっている。また隣接の事業所と合同誕生会やイベントを行っており、日々交流を図っている。家庭的な雰囲気の中で、利用者様一人一人の思いに添った支援に心掛けている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは近隣に商店街や公園のある市街地中心に位置しており、買物や散歩を通じた地域の方とのふれあいが入居者の楽しみとなっている。ホームは町内会回覧板を通じてホーム情報を発信し理解を深めるほか、避難訓練時には町内会長や地域住民の参加があるなど、有事の際の相互協力体制を築いている。施設長は職員の資格取得やスキルアップに力を入れており、勤務シフトを調整するなど職員のサポート役として取り組み、職員からの意見や提案に対しても随時検討し、運営に反映できるよう努めている。ホームの母体が医療機関であることから医師との連携も良好で、入居者の体調不良時も早期治療に対応し、入居者本人及び家族の安心へと繋がっている。また、介護計画作成の際には必要に応じて母体医療機関の医師に相談を仰ぎながら入居者本人や家族の思い・意向を反映した計画を作成することで、入居者の自立に向けた支援へと繋げている。笑顔で優しい言葉掛けに努め、入居者一人ひとりの思いを大切に支援に取り組む職員の姿に、今後も期待できるホームと言える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名 長庚堂Ⅱ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の玄関、事務所にも掲示しており、毎日の朝の申し送り時に全員で唱和し共有に繋がっているが新入職者もおり、努力している	ホーム理念について、名札裏への貼付や毎朝の朝礼時に唱和することで職員の意識付けを図り、職員一人ひとりが理念をもとに日々の業務に従事している。また、2か月毎のスタッフ会議にて支援内容の振り返りを行うほか、新入職者には施設長より説明し理念の共有を図っている。職員は入居者と個々に話す機会を持ち、思いや楽しみの把握に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に入っており、回覧板や町内会長様、民生児童委員様の協力にて交流ができています	地域に町内会回覧板を通じてホームのお知らせや行事を案内するほか、地域住民からの花や野菜の差し入れ、年末ホームでの餅つき後に近隣住民へ餅を届けるなど、地域との繋がりを大切に取り組んでいる。また、近所の染物店から毎年干支入りタペストリーのプレゼントがあり、入居者の楽しみとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	母体法人での介護と医療の研修会にて発表の場を設け、地域の人にも理解して頂けるように努めている。また、町内会の人で相談があれば、その都度対応している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナウイルスにて、書面での開催もあったが、長庚堂と合同での開催を行い、多人数での話し合いに心掛けている	運営推進会議には地域包括支援センター職員・町内会長・民生委員・入居者代表・家族代表の参加があり、意見交換の場として活用している。民生委員からは地域行事の情報提供があり、町内会長からは災害時の対応についてアドバイスを受けるなど、地域との協力体制を構築している。また、家族へ議事録を送付し情報を共有するほか、月初めに会議案内を郵送し参加を促している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	電話や直接来所しての相談や協力が得られている	地域包括支援センター職員とは運営推進会議を通してホームの実情を伝えており、市担当者とはホーム運営に関する相談事や不明な事柄について電話にてアドバイスを得ている。また、島原地域広域市町村圏組合主催の『介護職員等基礎研修事業』に毎年参加し、職員のスキルアップやサービス向上に繋げている。尚、今年度についてはコロナ禍の状況にあることから中止となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当施設は身体拘束をしない方針にて、玄関などの施錠もしておらず、職員は研修会にも参加し取り組んでいる	ホームではベッド柵の使用に関し、職員及び家族参加によるケアカンファレンスにて現状確認を行っている。また、母体医療機関・島原地域広域市町村圏組合・主治医と連携を図ったことでベッド柵不使用に繋がった事例があり、職員は身体拘束をしないケアに取り組んでいる。昨年8月にはグループホーム連絡協議会主催の研修会に参加し知識を深めている。また、今年10月には新人職員を対象とした研修会へ参加予定である。	身体拘束に関する指針はあるものの、身体拘束適正化委員会の設置及び開催状況について確認できなかった。現在、身体拘束適正化委員会の設置並びに結果について全職員に周知することが求められているため、早急な対応が望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会にも参加し、意識付けを行っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	母体法人などでの勉強会に参加し学んでいる		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、施設見学と十分な説明を行った上で、同意を得ている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に聞き取りを行っている。意見箱は玄関に設置しているが、一度も投函された事がない	職員は家族へ細目に連絡し、会話の機会を多く持つことで意見や要望を述べやすいよう配慮するとともに、入居者本人及び家族からの要望については申し送りノートに記入し、情報共有を図っている。また、入居者の様子やホームからの連絡事項などを載せた「長庚堂便り」を郵送し、現状報告を行うことでホームの理解へと繋がっている。更に、入居者本人及び家族の希望にて外部よりマッサージ師が来訪するなど、希望に沿えるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者で、対応困難な意見、提案に対しては、母体法人の代表者と話し合い、反映に努めている	施設長は職員が資格を取得できるよう勤務シフトを調整するなど、職員のスキルアップに向けたサポートに努めている。また、職員から提案があれば随時検討し運営に反映するよう努めており、入居者の状態に応じた外出先について職員が率先して提案し反映するなど、入居者の楽しみへと繋げている。また、2か月毎のスタッフ会議に限らず、職員より提案がある場合はその都度話を聞き検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見にも少なからず、把握されており環境作りに努力されている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修等にも参加できる機会を設ける事ができ向上心が持てる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	半島GH連絡協議会、島原支部GH連絡協議会と共に、学べる研修会や交流の場がある		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々、寄り添い会話の中で気付く事や安心、信頼関係に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	計画作成時や、面会時に必ず、話す機会を作り耳を傾けている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、ご家族の意見、要望、思いを会話の中で知るように努めサービスに心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気作りと、家事等も一緒に参加し家族の一員となり行っている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や面会、手紙にて支援できており、ご家族の協力にて、自宅への外出、外泊などで絆の関係が築かれている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	定期的に友人、これまで住まれていた町内の方の面会があり、冠婚葬祭への支援も行っている	ホームでは入居前からの友人が利用する施設及び母体医療機関の通所事業所へ訪問するほか、遠方等の理由から面会が困難な場合には電話での会話や絵葉書のやり取りなど、馴染みの人との関係が継続できるよう支援している。また、法事に参列する際の御仏前の準備から寺院までの送迎、墓参りへの付き添いなど、関係性を大事にした支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士でゲーム等、職員が間に入り行なったり、会話も弾まれ触れ合う時間ができているが 一緒に触れ合うよりも、居室で過ごしたい利用者様も居られる		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も、面会に行ったり、ご家族が来所され、近況報告と相談にも来られるケースもあり、支援に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来るだけ要望に沿って対応するように心がけているが、対応困難時は、ご家族様の支援も受けている	ホームでは入居時にアセスメント表やフェイスシートにて入居者の心身の状況・生活歴・趣味のほか、知人との交流状況や要望など詳細に聞き取り、入居者の希望する暮らしの実現に向け、家族と相談しながら支援している。施設長は毎日全居室を訪室し、入居者と1対1で話す時間を持つことで思いや意向の把握に努めている。言葉で伝えることが難しい方については表情で思いを汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、担当者より、聞き取りにて把握するように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録、申し送りにて、個々に把握するようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議やモニタリングを実施し、反映させるようにしている	介護計画立案時には入居者本人・家族・ケアマネジャー・職員・医師参加によるサービス担当者会議を開催し、現状に即した計画となるよう努めている。遠方の家族については電話にて意向を確認し、内容に反映している。職員は個人記録に記載した計画書のケア内容を日々確認することで、計画に沿った統一したケアの提供へと繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に、短期目標のケア内容の評価を日々、記録する事で、職員間の共有につながっている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	母体法人の他職種からのアドバイスや協力支援を受けながら取り組んでいる		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内会の方と一緒に市民清掃に参加したり、祭りなどの行事にも参加できるよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望にて受診できており、また母体法人からは訪問診療も希望により受ける事ができている	ホームでは入居前からのかかりつけ医や眼科、歯科を継続して受診することができ、受診結果や検査データについてはその都度家族へ報告し、希望に沿った医療を受けることができるよう支援している。母体医療機関が近くにあることから入居者の体調不良時には迅速に対応することができ、早期に治療できることが入居者本人及び家族の安心へと繋がっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の医療連携と24時間体制にて母体法人の看護師と常に相談支援が受けられている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	本人、家族、主治医と相談し連携を図り、早期退院へ向ける努力をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画作成時やに、本人、家族の意向を確認し支援している	現在、ホームでの看取りは行っていない旨を入居前に入居者本人及び家族へ説明し、同意を得ている。ホームでは入居者の状態が急変した際の対応方法について緊急時対応マニュアルを整備するとともに、定期的に内容を確認することで職員への周知を図っている。今後、重度化や終末期に関する研修会があれば参加する予定である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会、研修会に参加しており、消防署や母体での救急蘇生法、AED操作、なども学んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている	マニュアルを作成しており、施設内での訓練及び母体法人内の訓練にも参加している。また、地元消防団の協力参加と、支援体制も築いている	ホームでは今年6月にホーム玄関に自家発電機を設置し、操作方法について母体医療機関管理室より職員へ毎月指導があるほか、定期的に動作を確認し停電に備えている。避難訓練には家族・町内会長・地域の方が見学で参加するなど地域との協力体制を築いている。尚、自然災害時の避難については、避難先の状況や入居者の心身の状態を考慮し、母体医療機関と相談しながら避難先を検討する方針としている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	運営理念に基づき、保護に努めている	法人内の接遇委員会へ職員が委員として出席し接遇に関する知識を深めるほか、年2回法人内での接遇の勉強会には全職員で参加し、日頃の接遇マナーの振り返りの機会として活用している。職員は排泄の声掛けや誘導を行う際、耳元で伝えることで入居者の羞恥心や自尊心に配慮しており、笑顔で優しい言葉掛けに努めている。また、不適切な言葉掛けがあった場合はその都度注意し改善している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	言葉で疎通困難な利用者様には、筆談やジェスチャーを用いて、または表情を察知して努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	勤務状況では、直ぐに対応、希望に添えない事もあるが、できるだけ意に沿えるように努めている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服や散髪等は出来るだけ、本人の希望を優先して支援を行っている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	宅配業者の食事となっている為に、定期的に業者担当者が来所され、相談を行ったり、外食などで好みの食事を摂って頂く工夫は行っている	食材は宅配食の業者へ依頼しており、野菜のカット方法や食材の硬さを相談し、一口大・刻み・トロミ食など入居者の有する力に合わせた食事を提供している。素麺やいなり寿司など宅配食のメニューにないものについて入居者から希望があった場合はホームで作るなど、食事が楽しいものとなるよう努めている。疾患や服用中の内服に応じて禁忌の食物がある方については「利用者食事形態表」にて確認している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者の栄養士にてバランスの取れたメニューとなっており、水分補給は気候や体調に合わせている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛けにて歯磨きをされており、出来ない利用者様は介助にて支援し清潔保持に努めている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を把握し、トイレ誘導の声かけを行っており、布パンツに移行できた利用者様もある	職員は排泄チェック表を確認し、時間毎にトイレ誘導を行うことでトイレでの排泄へと繋げている。また、職員間のケアカンファレンスでの結果をもとに家族へ相談、介助方法を決定しリハビリパンツから布パンツへ移行するなど、自立支援に向けた取り組みを行っている。また、排泄を失敗した際には温かいタオルで清拭し、保清に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を把握にて、適度の水分補給の促しや適度の運動にて行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は定めているが、希望や必要に応じて対応している。また、ゆず風呂等、季節感等も味わう支援も行っている	ホームでは一人での入浴を希望する方、仲の良い方同士で入浴するなど、入居者一人ひとりの希望に合わせて入浴が楽しいものとなるよう配慮している。入浴を拒否する方については時間をずらしたり声掛けの仕方を変えて誘導したりするなど、その方の心情に配慮し気持ち良く入浴できるよう工夫している。入浴後は処方分の保湿剤を塗布し、皮膚疾患の予防に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様、個々に合わせるようにしている。不安がある利用者様には側にいて落ち着いて休んで頂いている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	マニュアルを作成にて、基づいて支援、確認を行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味の継続支援やレクリエーションを日々、予定し気分転換を図っているまた、家事に参加し張り合いにもつながっている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限りの対応にて外出支援をおこなっている。また、ご家族様の支援も受ける事ができている	ホーム近隣には商店街や公園など日常的に散歩や買物がしやすい環境にあり、入居者の楽しみとなっている。毎朝入居者と一緒に散歩を兼ねてホーム近くの湧き水を汲みに行くことで気分転換や体力維持を図っている。また、家族と外出する場合には排泄状況や食事状況、内服薬の説明を行い、外出が楽しいものとなるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人、家族の希望にて少額を持たれておられる方もあるが、殆どの利用者様は管理できないが自分で選んで、買う楽しみが出来るよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、家族の希望での電話や手紙など継続できている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	天窓を取っており、明るい。居室の入り口には季節毎の飾りつけとご本人の写真を入れ飾り付けている	リビングの天窓から入る日光によって建物内が明るく温かな雰囲気を出している。廊下には手すりを設置し、入居者が押し車や杖などを使用せず自立して歩行できるよう配慮している。掃除については毎日行っており、不快な臭いなどない清潔な空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼務リビングは、利用者様の憩いの場となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望で自宅から馴染んだ家具や仏壇等の持ち込みにて工夫をしている	居室には入居前に使用していた家具等の持ち込みや入居者本人の書道作品を掲示するなど、職員は居室が入居者にとって居心地良い空間となるよう努めている。毎朝居室にある仏壇にお茶とご飯を準備し供えるなど、本人の思いを大事にした支援に取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーにて、廊下は手すりを設置し、隣設の事業所とは、ロフトで繋いでおり交流が常にできている		